

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家	ユニット名	1階
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成24年3月2日	評価結果市町村受理日	平成24年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101131&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は明るく清潔。法人の理念「清潔、気持ちのわかる親切、和やかな雰囲気」グループホームの理念「自然体で安らぎぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を基本とし、感謝の気持ちを忘れず利用者として接している。
常に話し合いをし、より良いケアが出来るよう取り組んでいる。
健康面や安全面に配慮しながら、その人らしい生活が出来るよう支援している。
ご家族ともより良い関係が保てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然の中に医療法人の運営するグループホームがある。法人内の医療や福祉の各施設との連携はもとより、組織化された防災対策による安全面や職員教育の充実など、恵まれた環境を活かして実践される支援は、本人や家族等関係者が等しく信頼を寄せる場所である。明るくゆとりのある施設で行き届いたケアを受け、利用者は穏やかに日々を過ごしている。施設長は優れた指導力で職員と共に目標を設定し、常に提供するサービスの質の向上を目指している。地域の一員として住民との交流をさらに深め、「ぬくもりのある暮らしの中で利用者と共に歩む」理念の実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切、清潔、和やかな雰囲気」を基本に、グループホームの理念「自然体で安らぎ、ぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を実践して行くよう日々努力しています。	法人理念を基にグループホーム独自の理念を合わせ持ち、会議等の機会に職員全員で共有している。日々の業務の中で常に立ち戻るべきケアの基本として周知に努め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの参加や町内のお店の利用で、少しずつ施設と地域の方との交流が出来てきていると思います。今後は地域の行事に少しでも関わることが出来る様にと考えている。	広い敷地内の散歩や売店での買い物などの折、イベントあるいはボランティアで訪れた人や散歩中の地域の住民とも触れ合う機会があり、一方で外に出向くことの重要さも認識しており、取り組みを始めている。	自然に恵まれた法人施設群の環境下は様々な物事に対する利便性が高い。それを踏まえ現在進めている、施設から地域へ出向き住民との交流を図る取り組みの継続が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行なっている。グループホームとして地域の方への働きかけは不十分な面はある。運営推進会議を通して少しずつ理解して頂くことやボランティアを導入し理解を求めて頂くよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、地域包括支援センター職員、家族の代表、市担当者等の参加により開催し活動や現状を報告している。今後は今以上にサービスの向上に活かせるよう会議の内容を検討していきたい。	家族や住民代表をはじめ幅広い関係者の出席で2ヶ月ごとに開催しており、内容も具体的に充実している。会議における意見をサービス向上の為、今以上に反映させる方法の検討を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状を見て頂いている。	市の介護相談員が毎月来所して、施設の現状を見聞している。行政窓口に出向く取り組みの他、運営推進会議の折にも行政担当者と意見交換し助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修への参加や、正しく理解して行くよう話し合いをもち、実践していくようにしている。	時間をかけた新人研修や年3回以上のフォローアップ研修等、職員は身体拘束に関する理解を深めるよう努めている。出入口の施錠もやむを得ない場合のみに限定し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を身につけるよう、ミーティングにて勉強し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内の研修にて勉強するのみに留まり、活用、支援については、法人内の担当者がおもに行なっている。今後も知識としてより深く学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会も設けており、理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画説明時に意見や要望を聞きいている。必要であれば法人相談課にて話し合いをして行くことも可能である。	利用者の近況などを折に触れ伝える気配りで、相互に十分な意見交換ができています。利用者・家族等はいつでも意見や苦情を表す機会があり、それらを運営に反映させる仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に意見箱を設置している。提案等を聞ける機会を設けている。ミーティングや個別に意見を聞き反映させるよう努めている。	2ヶ月ごとに現場の意見や提案等を上申する機会がある。法人設置の意見箱の職員意見は、現場の生の声として直接法人担当者に届き検討される。管理者は全職員と面談し精神面のフォローとケアを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間については、少しずつ改善に向けて修正している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修の参加や、院内研修への積極的に参加し、ミーティングでフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、勉強会等に参加している。少しずつ参加する機会が増えており、今後も継続しよりよい体験を職員にしてみたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が家族より相談を受けている。本人の困っている事や要望についてはご家族から聞き取る事が多いが要望に沿った必要なサービスの利用が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が相談を受け要望や不安を聞きとり不安がないよう安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聞き今後の関係作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課にて相談を受けた際、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行ない他サービスの可能性についても検討する等、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意思を大切にし、出来る限り自立した生活が出来るよう、さりげなく支援したり、職員が困っている時は、助けていただく等、支えあう関係作りをして行くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、その都度状況説明をし、協力をして頂いている。ご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解していただきながら、よりよい関係が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状況や周囲の状況にもよるが、馴染みの関係がとぎれる事無く続けていけるよう支援している。ご家族に協力して頂くこともある。	可能な限り希望を入れ、家族等の協力のもとかつて暮らした地域との関係性が途切れないよう、馴染みの人や場所、さらに商店などとの交流を考慮した支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や周囲の状況にもよるが、馴染みの関係がとぎれる事無く続けていけるよう支援している。ご家族に協力して頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、他施設及び在宅へ変更された後においても、必要な場合は情報提供や相談をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活習慣等の把握。日常の会話の中での希望や意向をさりげなく聞き、必要であれば、ご家族に協力して頂く等可能な範囲で支援している。	日々の生活の中で利用者の言葉や表情から真意をくみ取るように努めている。情報収集や分析には24時間シートを活用し、利用者個々のニーズを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人、ご家族の話し等から情報収集を行っている。これまでのサービス利用の経過等については、法人内の介護支援専門員等から情報を得、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルの記録。一人ひとりの昼夜の様子を記録し、精神面、身体面の変化の把握に努めている。医師の診察時に報告をし、心身共に安定した生活を送る事が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや毎日のカンファレンス、ケア担当者会議等にて、医師、看護師、栄養士、相談員、介護士がそれぞれ意見を出し検討したものを介護計画に反映している。ご家族には計画を見て頂き意見要望を聞いている。	計画担当者だけでなく、多くの関係者の意見を検討し介護計画に反映している。本人・家族の意向を最優先し、毎日のカンファレンス、2ヶ月ごとのモニタリングを実施して利用者がより良く暮らせるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、毎日のカンファレンス等で気づきや情報を共有し、実践に繋げ介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、ニーズに対応できるようにその都度検討し、事業所として出来る限り支援して行けるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りの参加や、グループホーム内での行事において、近隣のお店の活用をし、ボランティアの交流もしている。その他、法人全体として行なっている事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意のもと、西山病院の医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、緊急時にも対応してくれている。耳鼻科、眼科、整形外科は他の医療機関をご家族に同行して受診して頂いている。	入居時の話し合いで、かかりつけ医を法人内の病院の医師に変更の諒解を得ている。専門外の医療は、他の医療機関への受診をお願いしている。かかりつけ医は緊急時にも直ぐに対応できる体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の病院(協力医療機関)の看護師に必要時連絡をし適宜相談、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行なわれたり、その都度報告や相談を行なっている。また、法人内の相談課により他医療機関との相談や情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重度化や医療の必要性についてなるべく早い段階に説明し、共同生活が困難になりつつある事に理解が得られるよう努め、家族に対して相談員からその後のサービスについて説明を聞いて頂いている。	入居時に重度化や終末期における施設の対応と、医療機関や他の福祉施設との連携について説明している。状況の変化等記録に残し家族との連絡を密にして理解を得られるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師がただち来る事になっている為、定期的に訓練を行なうことまではしていないが、周知していく必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体としての災害時対策マニュアルや、施設ごとの年3回の防災訓練。入居者の非難誘導も行なっている。非常時の備蓄や備品保管場所に関しては常に職員一人ひとり認識しているよう努めた。	防災訓練(夜間想定含む)を年3回実施しており、地域防災訓練にも参加している。有事には隣接する施設からの職員の応援体制が構築されている。グループホーム独自の災害対策マニュアルの作成を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応をして行くよう心掛けている。その日の精神状態や身体的機能の変化に早く気づき、誇りやプライバシーが侵される事なく生活出来るよう支援している。	職員は利用者一人ひとりを尊重する態度が身につけており、誇りやプライドを傷つける言動は見られなかった。個人が尊重されるよう、その人その人に合わせた柔軟な対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端はしから感じ取れる思いを汲み取る事が出来るよう寄り添い待つ事を基本としたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活の場であるという事を大切にし、業務優先にならないよう、今現在大切な事、何をすべきか、何をしたいのかという事を、利用者の立場で十分に考慮し、利用者のペースを守るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回の理容師の来訪や、いきつけの美容院への外出の支援。その他、出来る限りその人にあったおしゃれの継続ができるよう支援している。身支度を整えることが、難しい方にはさりげなく援助するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、片付けは無理強いをせず、自然な形で手伝って頂けるようにしている。職員も同じテーブルで食事をし、一緒に食事を楽しんでいる。月2回の手作り昼食では、職員と共に料理を楽しんでいる	利用者の能力を引き出す機会と考え、盛り付けや配膳等職員と共に行い、食後は自分の食器を順に洗っている。手作り昼食の日も楽しみの一つである。利用者各々が役割を持ち、食事を大切な活動のひとつとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態であり、法人の栄養士によるカロリー計算された食事内容である。水分補給は嚥下に合わせ、トロミをつける等工夫して摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方には曜日を決め「入れ歯洗浄剤」を行なっている。歯磨きが上手く出来ない方には、お茶で口をゆすいでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行なっている。その際プライバシーに配慮し、自立に向けた支援をしている。	排泄チェックでパターンが把握されており、利用者が困らないよう、それに添った支援が行われている。排泄の失敗の際の声掛けには本人のプライドを傷つけないような配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分摂取を勧める、乳製品を摂取するようにしている。適度な運動も必要を運動を促す。内服薬が必要な方には薬の調節を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯については決まっているが、利用者の気持ちに沿って無理強いはない。入浴が好きではない人には曜日に関係なく入浴して頂く時間を作っている。気持ちよく入浴できるよう支援している。	隔日、週3回の入浴支援を行っている。入浴を拒む利用者には日時を変えたり、一人ひとりの気持ちに合わせて清潔保持ができるようにしている。またゆず湯等で季節を感じてもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息をとって頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有している。内服の開始、中止、内服後の状態等、記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合は医師に相談し内服薬の変更を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の現在の出来る力、意志を大切に日々支援している。買い物好きな方には月一回ではあるが買い物の日を作るなど、出来る限り気持ちに沿うように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の所、年2回の外出レクリエーションが中心となっている。外出についてはご家族の協力を得る事も必要である。個別では、美容院や買い物などに出掛けられるよう支援しているが、多くの課題も残されている。	毎日広い敷地内を散歩し近隣住民と挨拶を交わしている。月に一度は法人内の売店だけでなく、職員と共に外出してショッピングを楽しむ時間もある。さらに年2回のレクリエーションでは季節を感じてもらえるような計画にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	決まった時間内での携帯電話の使用をしている。周囲の環境によりトラブルを避ける為、携帯電話を預かっている場合もある。日中の時間内であれば、希望時には掛けることが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔に保つように努めている。緑が多く見える景色や暖かい日差しは居心地の良い場所を作っている。ホール内は明るく見やすい。利用者の作品や行事の様子などを展示し和やかな雰囲気作りをしている。	入口を開けると鈴の音と共に食堂や居間・台所を見渡せる広い共有空間がある。さりげなく置かれた観葉植物はセミプライベートな空間を作り出している。利用者の作品展示コーナーには高さを合わせたソファがあり、無理なくゆっくりとくつろげる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まれる居間や一人で作業ができるテーブルがある。所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスはこちらで用意したものを使用している。個々に使い慣れた物を使用し暮らしやすい居室作りをされているが、利用者の状態によっては、物を置かない部屋作りをしている場合もある。	馴染みの筆筒やテレビが持ち込まれ、本人の希望に合わせた居室となっている。利用者の状態によっては物を置かないなどの配慮があり、一人ひとりが居心地良く暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。ドアやタンスは開けやすいよう軽く出来ている。居室には名前を貼り、トイレの標示をしている。必要な箇所には手摺りを設置している。台所も利用者の使いやすい高さになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家	ユニット名	2階
所在地	静岡県浜松市西区西山町520		
自己評価作成日	平成24年3月2日	評価結果市町村受理日	平成24年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101131&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は明るく清潔。法人の理念「清潔、気持ちのわかる親切、和やかな雰囲気」グループホームの理念「自然体で安らぎぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を基本とし、感謝の気持ちを忘れずに利用者者と接している。
常に話し合いをし、より良いケアが出来るよう取り組んでいる。
健康面や安全面に配慮しながら、その人らしい生活が出来るよう支援している。
ご家族ともよりよい関係が保てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切、清潔、和やかな雰囲気」を基本に、グループホームの理念「自然体で安らぎ、ぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を実践して行くよう日々努力しています。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの参加や町内のお店の利用で、少しずつ施設と地域の方との交流が出来てきていると思います。今後は地域の行事に少しでも関わることが出来るようにと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行なっている。グループホームとして地域の方への働きかけは不十分な面はある。運営推進会議を通して少しずつ理解して頂くことやボランティアを導入し理解を求めて頂くよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、地域包括支援センター職員、家族の代表、市担当者等の参加により開催し活動や現状を報告している。今後は今以上にサービスの向上に活かせるよう会議の内容を検討していきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状を見て頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修への参加や、正しく理解して行くよう話し合いをもち、実践していくようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を身につけるよう、ミーティングにて勉強し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内の研修にて勉強するのみに留まり、活用支援については、法人内の担当者がおもに行なっている。より深く学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会も設けており、理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画説明時に意見や要望を聞いている。必要であれば法人相談課にて話し合いをして行くことも可能である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に意見箱を設置している。提案等を聞ける機会を設けている。ミーティングや個別に意見を聞き反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間については、少しずつ改善に向けて修正している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修の参加や、院内研修へ積極的に参加し、ミーティングでフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、勉強会に参加している。少しずつ参加する機会が増えており、今後も継続しより良い体験を職員にしてもらいたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が家族より相談を受けている。本人の困っている事や要望についてはご家族から聞き取る事が多いが要望に沿った必要なサービスの利用が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が相談を受け要望や不安を聞き取り不安がないよう安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聞き今後の関係作りに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課にて相談を受けた際、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行ない他サービスの可能性についても検討する等、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を大切にし、出来る限り自立した生活が出来るよう、さりげなく支援したり、職員が困っている時は、助けていただく等、支えあう関係作りをして行くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、その都度説明をし、協力をして頂いている。ご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解していただきながら、より良い関係が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の状態や状況にもよるが、出来る限り馴染みの関係が継続できるよう支援している。馴染みの場所については、ご家族の協力を必要とする事が多く理解も必要となってくる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況や周囲の状況にもよるが、馴染みの関係がとぎれる事無く続けていけるよう支援している。ご家族に協力して頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了し、他施設及び在宅へ変更された後においても、必要な場合は情報提供や相談をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活習慣等の把握。日常会話の中での希望や意向をさりげなく聞き、必要であれば、ご家族に協力して頂く等可能な範囲で支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人、ご家族の話し等から情報収集を行っている。これまでのサービス利用の経過等については、法人内の介護支援専門員等から情報を得、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルの記録。一人ひとりの昼夜の様子を記録し、精神面、身体面の変化の把握に努めている。医師の診察時に報告をし、心身共に安定した生活を送る事が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや毎日のカンファレンス、ケア担当者会議等にて、医師、看護師、栄養士、相談員、介護士がそれぞれ意見を出し検討したものを介護計画に反映している。ご家族には計画を見て頂き意見要望をきいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を介護記録に残し、毎日のカンファレンス等で気づきや情報を共有し、実践に繋げ計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、ニーズに対応できるようにその都度検討し、事業所として出来る限り支援していけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りの参加や、グループホーム内での行事において、近隣のお店の活用をしたり、ボランティアの交流もしている。その他、法人全体として行なっている事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同意のもと西山病院の医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、緊急時にも対応してくれる。耳鼻科、眼科、整形外科は他医療機関を家族同行で受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の病院(協力医療機関)の看護師に必要時連絡をし適宜相談、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行なわれたり、その都度報告や相談を行なっている。また、法人内の相談課により他医療機関との相談や情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重度化や医療の必要性についてなるべく早い段階に説明し、共同生活が困難になりつつある事に理解が得られるよう努め、家族に対して相談員からその後のサービスについて説明を聞いて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事は隣接する病院から看護師がただちに来る事になっている為、定期的に訓練を行なうことまではしていないが、周知しておく必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体としての災害時対策マニュアルや、施設ごとの年3回の防災訓練。入居者の非難誘導も行なっている。非常時の備蓄や保管場所に関しては常に一人ひとりが認識できるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応をして行くよう心掛けている。その日の精神状態や身体的機能の変化に早く気付き、誇りやプライバシーが侵される事なく生活できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端から感じ取れる思いを汲み取る事が出来るよう寄り添い待つ事を基本としたケアを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活の場である事を大切に、業務優先にならないよう、今現在大切な事、何をすべきか、何をしたいのかという事を、利用者の立場で十分に考慮し、利用者のペースを守るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回の理容師の来訪や、いきつけの美容院への外出の支援。出来る限りその人にあったおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整える事が困難な方にはさりげなく援助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、片付けは無理強いをせず、自然な形で手伝って頂けるようにしている。職員も同じテーブルで食事をし、一緒に食事を楽しんでいる。月2回の手作り昼食では、職員と共に料理を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態であり、法人の栄養士によるカロリー計算された食事内容である。水分補給は嚥下に合わせ、トロミをつける等工夫して摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方には曜日を決め「入れ歯洗浄剤」を行なっている。歯磨きが上手く出来ない方には、お茶で口をゆすいで頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行なっている。その際プライバシーに配慮し、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分摂取を勧める、乳製品を摂取するようにしている。適度な運動も必要な為、運動を促す。内服薬が必要な方には薬の調節を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、利用者の気持ちに沿って無理強いはいしていない。入浴が好きではない人には曜日に関係なく入浴して頂く時間を作っている。気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息をとって頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有している。内服薬の開始、中止、内服後の状態等、記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合には医師に相談し内服の変更を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の現在の出来る力、意志を大切に日々支援している。買い物好きな方には月一回ではあるが買い物の日をつくなど、出来る限り気持ちに沿うように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の所、年2回の外出レクリエーションが中心となっている。外出についてはご家族の協力を得る事も必要である。個別では、美容院や買い物に出かけられるよう支援しているが、課題も多く残されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	決まった時間内での携帯電話の使用をしている。周囲の環境によりトラブルを避ける為、携帯電話を預かっている場合もある。日中の時間内であれば、希望時には掛けることが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔に保つように努めている。緑が多く見える景色や暖かい日差しは居心地の良い場所を作っている。ホール内は明るく見やすい。利用者の作品や行事の様子などを展示し和やかな雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まれる居間や一人で作業できるテーブルがある。所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスはこちらで用意したものを使用している。個々に使い慣れた物を使用し暮らしやすい居室作りをされているが、利用者の状態によっては、物を置かない部屋作りをしている場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。ドアやタンスは開けやすいよう軽く出来ている。居室には名前を貼り、トイレの標示をしている。必要な箇所には手摺りを設置している。台所も利用者の使いやすい高さになっている。		